

安全データシート



1. 化学品及び会社情報

法人名 : 国立研究開発法人 産業技術総合研究所
 住所 : 東京都千代田区霞が関 1-3-1
 担当部門 : 計量標準総合センター 計量標準普及センター 標準物質認証管理室
 担当者 : 認証標準物質担当
 電話番号 : 029-861-4059 ファックス番号 : 029-861-4009
 緊急連絡電話番号 : 同上

作成日 : 2010年9月22日

改正日 : 2020年1月31日

整理番号 : 3007001

化学品の名称(製品名) : 認証標準物質 NMIJ CRM 3007-a しゅう酸ナトリウム
 (Sodium Oxalate)

推奨用途及び使用上の制限 : 本標準物質は、滴定等の基準として用いることができる。
 試験・研究用以外には使用しないこと。
 本標準物質は、標準物質(日本産業規格(JIS) Q0030に定められるもの)である。

2. 危険有害性の要約

GHS分類 : 目に対する重篤な損傷性/目刺激性 : 区分2A

GHSラベル要素 :



注意喚起語 : 警告

危険有害性情報 : 強い眼刺激

注意書き : [安全対策]

保護眼鏡などの、適切な個人用保護具を着用すること。

取り扱い後手をよく洗うこと。

[応急措置]

吸入した場合 : 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかみ、うがいをさせる。医師の処置を受ける。

飲み込んだ場合 : 水で口の中を洗浄し、コップ1-2杯の水または牛乳を飲ませる。直ちに医師の処置を受ける。

眼に入った場合 : 直ちに流水で十分に洗い流し、医師の処置を受ける。

皮膚に付着した場合 : 直ちに流水で十分に洗い流し、医師の処置を受ける。

[保管]

室温かつ湿度約60%以下で、瓶は密閉した状態において酸・アルカリやその他の薬品の影響を受けないようにし、施錠して保管すること。な

お、本標準物質は、毒物及び劇物取締法上の劇物としての取り扱いが必要である。

[廃棄]

関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。
 都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

上記で記載が無い危険有害性は分類対象外または分類できない。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 単一製品
化学名又は一般名	: しゅう酸ナトリウム
別名	: しゅう酸ソーダ
化学特性	: $\text{Na}_2(\text{COO})_2$
分子量	: 134.0
CAS 番号	: 62-76-0
含有量	: 99 %以上
官報公示整理番号(化審法)	: 2-922
官報公示整理番号(安衛法)	: 公表

4. 応急措置

吸入した場合	: 直ちに新鮮な空気のある場所に移し、鼻をかみ、うがいをさせる。医師の処置を受ける。
皮膚に付着した場合	: 直ちに流水で十分に洗い流し、医師の処置を受ける。
眼に入った場合	: 直ちに流水で十分に洗い流し、医師の処置を受ける。
飲み込んだ場合	: 水で口の中を洗浄し、コップ 1-2 杯の水または牛乳を飲ませる。直ちに医師の処置を受ける。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	: 眼に入ると粘膜などを刺激して炎症を起こす。皮膚に付着すると痛み、熱傷などを起こすことがある。強い眼刺激。
応急処置をする者の保護	: 個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

消火剤	: 初期消火として粉末、二酸化炭素、粉末消火設備、器具で消火する。水溶性液体用泡消火剤（耐アルコール泡）、二酸化炭素、粉末、砂、水。
使ってはならない消火剤	: 棒状放水。
火災時の特有危険有害性	: 火災時に刺激性もしくは有毒なヒューム（またはガス）が発生することがある。消火水は汚染を引き起こす可能性がある。
特有の消火方法	: 火元の燃焼源を断ち、適切な消火剤を用いて消火する。移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。移動不可能な場合には周辺を水噴霧で冷却する。消火活動は可能な限り風上からおこなう。消火のための放水等により、環境への影響を及ぼす物質が流出し

消火を行う者の保護 : ないよう適切な処置をする。
: 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。防火服、耐熱服、防護衣、空気呼吸器、循環式酸素呼吸器、ゴム手袋、ゴム長靴等の保護具を使用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 : 付近の着火源となるものを速やかに取り除く。着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入したりしないようにする。

環境に対する注意事項 : 漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

回収、中和 : 漏出した液は、ウエス、雑巾または土砂等に吸着させて空容器に回収し、そのあとを多量の水を用いて洗い流す。

二次災害の防止策 : 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。風上から作業して、風下の人を退避させる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 強酸化剤との接触を避ける。

安全取扱注意事項 : 容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。
漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
使用後は容器を密閉する。
取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。
休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではならない。
取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。
吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れたりしないように、適切な保護具を着用する。

保管

適切な保管条件 : 直射日光を避け、室温かつ湿度約 60 %以下で、瓶は密閉した状態において酸・アルカリやその他の薬品の影響を受けないようにし、施錠して保管すること。なお、本標準物質は、毒物及び劇物取締法上の劇物としての取り扱いが必要である。

安全な容器包装材料 : ポリエチレン
ガラス

※標準物質としての適切な保管条件、使用に関する注意事項については、認証書を参照のこと。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない

許容濃度 (物質名)

- ・ ACGIH TLV-TWA (2000 年) : (参考 しゅう酸 8H TWA 1mg/m³)
- ・ 日本産業衛生学会勧告値 (1998 年) : 設定されていない
- ・ OSHA PEL TWA : (参考 しゅう酸 TWA 1mg/m³, STEL 2mg/m³)

設備対策

- 換気・排気 : 全体換気装置
- 安全管理・ガスの検知 : 測定器、検知管
- 貯蔵上の注意 : 床面に沿って換気。密封。可燃性及び還元性物質、強酸化剤から離しておく。

保護具

- 呼吸器の保護具 : 有機ガス用防毒マスク、空気呼吸器
- 手の保護具 : 保護手袋
- 目の保護具 : 安全ゴーグル
- 皮膚及び身体の保護具 : 保護衣、顔面シールド

衛生対策

- マスク等の吸着剤の交換は定期的または使用の都度行う。
- 粉じんが発生する場合には、発生源を密閉し、局所排気装置を設置する。

9. 物理的及び化学的性質

- ・ 外観 : 結晶
- ・ 色 : 白色
- ・ 臭い : 無臭
- ・ pH : データなし
- ・ 融点 : 250 °C~270 °C
- ・ 沸点 : データなし
- ・ 引火点 : データなし
- ・ 爆発範囲 : データなし
- ・ 蒸気圧 : データなし
- ・ 相対蒸気密度 (空気 = 1) : データなし
- ・ 比重又は嵩比重 : 2.34
- ・ 溶解度 : 水にやや溶けやすく、エタノールに溶けにくい。
- ・ n-オクタノール / 水分配係数 (log Po/w) : データなし
- ・ 自然発火温度 : データなし
- ・ 分解温度 : 400 °C以上
- ・ 燃焼性 : データなし

10. 安定性及び反応性

◇安定性

- ・通常条件で安定である。400℃以上に加熱すると炭酸ナトリウムと一酸化炭素に分解する。
- ◇反応性
 - ・酸化剤と接触すると反応することがある。
- ◇危険有害反応性
 - ・データなし
- ◇避けるべき条件
 - ・日光、熱、湿気、酸化剤との接触
- ◇混触危険物質
 - ・データなし
- ◇危険有害な分解生成物
 - ・炭酸ナトリウム、一酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性	経口 ラット LD50=11160 mg/kg (RTECS)
	経口 マウス LD50=5094 mg/kg (RTECS)
	腹腔 マウス LD50=155 mg/kg (RTECS)
	皮下 マウス LD50=100 mg/kg (RTECS)
皮膚腐食性／刺激性	データなし
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	眼に対して強い刺激性がある (区分 2A) ECETOC TR48 (2) (1998) のウサギの試験では、最終観察日である処置後 14 日目において 3 匹中 2 匹はほぼ回復したものの、残る 1 匹にはあまり回復がみられなかった。処置後 21 日間における回復具合のデータはないが、処置後 24, 48, 72 時間目のドレイズスコアの平均値、並びに処置後 7 日目において 3 匹とも完全な回復はみられなかった。

12. 環境影響情報

- (参考として しゅう酸)
- 生態毒性
 - ・データなし
 - 分解性・濃縮性
 - ・分解度：37% by BOD (経産省既存化学物質安全性点検)
 - 生体蓄積性
 - ・データなし
 - 土壤中への移動性
 - ・データなし
 - オゾン層への有害性
 - ・データなし

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 焼却法
スクラバーを具備した焼却炉で焼却する。
これを含む排水は活性汚泥等の処理により清浄にしてから排出する。

廃棄においては関連法規ならびに地方自治体の条例に従うこと。
上記方法による処理ができない場合は都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

汚染容器および包装 : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号 : 該当なし
 国連分類 : -
 品名 : -
 容器等級 : -
 ICAO/IATA : 該当なし
 海洋汚染物質 : 該当なし
 注意事項 : 直射日光を避け、落下、転倒等による漏洩及び火気に十分注意し、慎重に運搬する。

15. 適用法令

◇毒物および劇物取締法
 劇物 包装等級3

16. その他の情報

その他

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づいて作成しており、全ての情報を網羅しているわけではありません。また、注意事項は通常の手扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

記載内容は情報提供を目的としており、取扱い上のいかなる保証をなすものではありません。